

雜 錄

●長江沿岸の鐵山に就て 會員小野田氏より左の

書簡に接したり謹んで御厚意を謝す、編者

三陽啓泰萬象回春梅蕊傳芳信候處御一同御揃筆硯益々御
適健之段奉爲賀爲頌候先月御發行の貴誌本日到着中々面白
く拜見就中長谷川氏の日本刀之研究最も興味讀下し申候
氏の熱誠質實なる御研鑽振と松本氏の學究の爲に不顧家寶
の御義舉とには感極て不覺嬉涙之滂沱たるを不禁奉深謝候
扱て同誌雜錄欄一瞥候處長江沿岸、鐵山之事有之チーカロ、
セイサン云々の事見え候が少しく誤聞有之様存候間旅行者
の爲に今少しく詳細御報道申上候、チーカロは紀家洛と書
き立派に地圖にのり居り候大冶縣城を去る約十里(日本里下皆同)西
方高地に位し石灰窑よりすれば約十七里はかりに御座候
間石堡の停車場を九時頃出發下陸驛に下車し轎を雇ひ青田
碧疇の間を縫ひ行けは午後二時頃大冶に到着候に付き市況
一覽こゝに一泊して明日霞と共に發足を便ならんと存候、
大冶は宋需萬止齊の故里にして唐時代より名ありしところ
人口十萬市況殷賑街衢端麗百廠完備、臺榭樓閣矚參差湖
心に臨める仙都にして隔水遙に父子山の翠鬟に對す湖畔七
層觀月塔の眺望は到底内地人の想像し得さるところ韓柳李
杜決して我を欺かざるを可申感知と存候、銀銅產出を以て

名高き牛頭、龍角の二山は屹然として南涯に三楚を壓し居
り候、紀家洛行の山道は羊腸たるも崎嶇ならず右顧左眄以
て可賞景悠々たる轎中にて可結夢候途中のリンホンサン、
何錫鋪山、螺螄橋山共に鐵山として充分探掘の價あるもの
と存候、螺螄橋より紀家洛に至る間は古代の鐵滓小丘をな
し處々散在、所謂探鑛家の頓馬を笑ひ居り候、當地の鐵滓
は總て鐵門坎のものよりも比重稍々重く光澤外觀混銑滓に
髣髴致居候

紀家洛は金湖と糴子湖との分水嶺にあたり土地高峻松梢
常に涼風を宿して盛夏臭蟲なく六月蚊子なし、史を案する
に『唐太宗貞觀元年永興隸鄂州南唐於永興屬地置青山場以
興爐冶保泰十三年時乾德三年也陞青山場並折武邑三郡置大
冶縣仍屬鄂州』と有之大冶縣は爐冶を以て興り今の石碧市
より鐵山鋪に至る武昌街道より發達候様に御座候間其の連
山たるこの地は或は當時已に知られ居り候らひしには非す
やと存候土民敦樸如太古之人味膾を盛り豆腐を供へ共に日
本人には食べられざるもの、遠來の珍客を歡待するなど素
素可愛柯氏最も有力に周、陳、之に次ぎ候馬賊の巢窟とは
思もよらず虎も豹も不出候、當山開鑛之着手は民國二年鐵
山鑛務局庶務課長殷氏二百金を以て獅子山を買收せしに窺
まり此か鑛量調査及運搬鐵路設計は已に數年來漢冶萍公司
及湖北鑛務局にて企畫致され居り候されはチーカロの事は
四百餘州御馳走になりつばなしにて花錢も知らざる代議士

輩には大冶土産の一つとして新收穫云々も無理からぬことゝは存候得共、さりとてあまりに間の抜け候話官民俱に睫に唾すへき事と存候。

鑛床はやはり古生紀石灰岩を交代せる接觸鑛床なるへきか、立派なる赤鐵鑛は花崗岩との間を大塊の露頭を顯しつゝ蜿蜒扁豆狀をなして連互致し居り候、走向北八十度東傾斜六十度劉岱山最も高く赭黒の虎龍蟠屈横臥蒼穹に長嘯せる様壯觀不可云人をして轉た先年日支協商文中大冶鐵道沿線云々の文字の蛇足なりしを切齒扼腕せしめ候鑛量一億餘萬噸と目され居り候

歸路は得道灣盛洪卿に取るを得策かと存候途中金山店に立寄る事を得候道程約十二里拂曉こゝを立てば薄暮盛洪卿に達すへく直ちに汽車にて石灰窑に下る事を可申得候、紀家洛の鐵鑛は是非とも全部、我と特約ある漢冶萍の占有に歸せしめ度と存候

セイザンはシーサン(西山)には非すや若しこれなれば彼の坡翁舟遊を以て有名なる人口膾炙の赤壁磯にして支那地質圖にも己に彩色を施せる所有望の山には相違なきも鑛量四千萬噸以上はちと如何かと存せられ候大明一統志によれば『赤壁山在府(黃州)城西北漢川門外屹立江濱截然如壁而有赤色因名一名赤壁磯以爲曹操敗走處非是周瑜爲曹操遇于赤壁在武昌府樊口之上江之南岸蘇軾遊此作赤壁二賦』と有之所謂斷崖千尋はこの赤鐵鑛のゴッサンなりし事明に御坐

候間武昌に熔鑛爐まで作りし實際家の東坡先生の管子も曰ひし『山上有赭下有鐵』の原理を知らざりし筈なく數百年來萬人周知の舊聞に屬しはせずと存候左に大冶附近有名なる鐵鑛の分析表を掲ぐれば如次に御坐候

山名	鐵分	滿俺	燐分	銅分	硫黃	硅酸
象鼻山	五五・四〇	〇・二六	〇・〇四	〇・二〇	〇・一〇	四・五
康山	六二・一〇	〇・四三	〇・〇三	〇・〇八	〇・一三	三・八九
平山	六〇・三五	〇・三五	〇・〇六	〇・〇三	〇・〇八	五・三〇
鐵子腦	五五・三〇	〇・二七	〇・〇三	〇・〇三	〇・二二	一・〇〇
金山店	五五・〇八	〇・五三	〇・〇五	〇・〇一	〇・〇七	七・九五
鳳山洞	六六・五三	〇・一〇	〇・〇一	〇・〇一	〇・〇九	三・〇〇
黃梅山	六六・〇九	〇・二二	〇・〇三	痕跡	痕跡	一・八〇
銀山頭	五六・一三	—	〇・〇四	—	三・〇三	一・七五
鷄籠山	六二・四三	〇・一三	〇・〇三	〇・〇八	〇・〇五	四・六〇
鳳理山	六六・八五	—	〇・〇四	〇・一六	〇・一三	—
西山	五四・三三	—	〇・〇七	〇・〇六	〇・〇八	三・三〇
紀家洛	六六・四二	〇・一六	〇・〇六	〇・一三	痕跡	三・〇三
獅子山	—	—	—	—	—	—

尙銀山頭を踏査せんものは石堡を午前四時發軔候へく更に大冶縣より龍角山を訪ね楊新(興國州)の寶庫を探つて富池口に出てんと欲せは須らく道をペツアップより東に取つて韓家、劉家、李家、諸山の溪谷に入らるべく興國よりは筏子にて網湖の鏡水を下るか最も宜しきかと存候、舟平に風軟なり柳蒲桑村楫人の行くこまかせて自らは仰臥閑雲の行手を危ぶむ内地水行の愉快に終生忘れられざるべく候湖口白馬壠は滿俺鑛を以て有名に候道程大冶よりペツアップまで五里ペツアップより興國まで本道七里回路十餘里興國より富

池口まで九里。

大江流域七十萬方哩江水の滲潤するところ黨帆の停泊する處寶藏無盡映膏不竭、石磯に桃沖に纔に日支合辦の幡怖を見る寧ろ恥のみ、由來支邦の事業は細くとも長さを尙び華よりも實なるを嘉ぶ内地旅行して人情風俗の機微を察するは決して徒勞に可非歐洲動亂の折柄洋奴に先鞭つけられさらんこと不堪切望候機は寧ろ大資本家の活動よりも小資本家の乾坤一拋を埃居候草々不宣(二月三日)

二伸學者中樊口を漢口となす人有之候得共現に武昌(鄂縣)の西樊川の河口に樊口有之夏江は又其の西方にあたり武昌は崖の下より申せば恰度東に相成候間西山の下が最も赤壁之賦の文章にあたり居り候、黃州は武昌の對岸に候。

●製鐵業獨立策 近年我國に於ては工業の發達に伴ひ鐵材の需要漸く増加し來りしより政府は曩に製鐵業調査會を組織し製鐵業發展の爲め最も適切なる方法を調査講究し之れか獎勵法を設けると共に官設製鐵所を擴張して六十萬噸の生産設備を爲すの案を立てたるか尙未だ能く我國全需要額の一半を供給するに足らず大部分は英米等より輸入しつゝありしか其後歐洲戰亂の影響に依り一方に我造船界著しき活況を呈するや鐵材の需要俄然激増すると同時に他方に於て英米等の輸出禁止に遭ひ爲めに我國に於ては今や鐵材は殆ど缺乏の狀態にして造船業の如き政府の彌縫策に依り辛うして既定計畫を進行せしめつゝあるの有様なり隨つ

て鐵材は無限の需要と共に驚く可き暴騰を來たし今や我製鐵業は將に一大發展の氣運に遭遇したり然るに我製鐵業は其期待の如く目覺しき發展を見る能はざるは抑も何ぞや原鑛の乏しきと戰後諸外國の投げ賣を虞るゝとは其二大原因にして此の原因は同時に又鐵材獨立自給能否論の依つて生ずる所以なりとす。

然らば我内地製鐵業の狀況如何八幡官設製鐵所は明治四十二年時の韓國農工商部より移管したる朝鮮黃海道載寧、及殷栗の二鑛山より採掘する十四萬噸(年額)大冶鐵山より購入する三十萬噸(年額)及内地並に朝鮮產鐵鑛約八萬噸を原料として三十萬噸内外の銑鐵並に鋼材を製造しつゝあり近く大正九年に到れば第三期擴張計畫完成し六十萬噸の生産能力を有するに至る可きが更に政府は時局の影響に鑑み特別擴張を行ふの目的を以て十萬二千噸の増加設備に要する經費千百五十餘萬圓を七年度豫算に計上し第四十議會に提案するに決せり八幡製鐵所の外、内地に在りては北海道輪西製鐵所、其他二十有餘箇所の製鐵所ありて釜石鑛山其他の原料に依り八幡製鐵所の生産額と合せて約八十八萬噸(六年八月農商務省調査)の生産能力を有せり翻つて我國に直接關係ある海外の鐵鑛並に製鐵業を見るに政友會代議士古谷久綱氏の實地調査に依れば朝鮮及支那に於ける製鐵原料並に製鐵業の狀況は左の如きものあり。

△兼二浦製鐵所 大同江沿岸にあり三菱の經營に係るものにして朝鮮の西海

岸、黃海道、平安南道及北道の鐵鑛を原料として年額十萬噸の銑鐵を造る計畫なりしが其の後北米合衆國の鐵材禁輸の影響に鑑み十萬噸の内五萬噸を更に進んで鋼と爲すの計畫に變更したり而して銑鐵は大正七年四月鋼鐵は同九月より製造に着手の豫定なり其他朝鮮に於ける鐵山には三菱の端川鐵山、茂山、嶺鐵山等あり何れも鑛量數千萬噸に達すと云ふ。

△本溪湖製鐵所 滿洲に於ける大事業の一にして我大倉組と支那政府との共同合辦事業なり現に銑鐵五萬噸を生産しつゝあるが近々十萬噸に達す可き計畫なり。

△鞍山站製鐵所 滿鐵會社の經營に係り目下基礎工事中なるか其規模頗る廣大にして二百萬坪の敷地を有し年額百萬噸の生産能力を有するの設備となすの計畫にして全體の計畫を八期に分ち目下第一期即ち十二萬五千噸の製鐵計畫を實行しつゝあり原料は東西兩鞍山站の原鑛を用ゆ可く其鐵分含有量は僅かに四十パーセント内外に過ぎざるが鑛量は無盡藏と稱せらる。

△金嶺鎮鐵山 曩きに獨逸は一億萬馬克の資本を以て青島附近の滄口に製鐵所を起すの計畫なりしが開戦後我が手に歸してより一時問題となりつゝありしが其後政府は愈々採鑛に決し年額十二萬噸の鐵鑛を八幡製鐵所に送りて製鐵する事となれりと云ふ。

△大冶鐵山 漢冶萍公司の所有にして鑛量無盡藏と稱せらる年々三十萬噸の鐵鑛を八幡製鐵所に賣却する外漢陽製鐵所に於て約二十五萬噸内外の製鐵を爲しつゝあり目下大冶に於て直ちに製鐵するの計畫を立て之れを四期に分ち每期二十五萬噸の製鐵能力を有する設備を爲す筈にて目下第一期工事進行中なり。

△桃中鐵山其他 東洋製鐵會社は主として桃中鐵山の鐵鑛を原料として製鐵を爲さんとするものにして又采石磯鐵山の產鐵は全部北海道輪西製鐵所に運搬せられつゝあり。

内外に於ける鐵鑛並に製鐵事業の狀態上述の如くなりとせば我國製鐵自給の前途は多く憂慮するに足らざるのみならず數年後に於て八幡製鐵所の八十萬噸計畫並に滿鐵の百萬噸計畫完成の曉は其他の生産と合して約三百萬噸内外の生産能力を有するに至る可く今日の需要額百三十萬噸か漸次

増加するものとするも決して悲觀するの要を見ざる可し然れとも是は今日國際貿易の關係を度外視したる場合に於て我製鐵業が極めて順調に發達したる結果を豫想したるより生したる樂觀なるを以て戦後米國の如き大生産國の投資に際會するに於ては意外なる障礙を來たすを覺悟せざる可からず戦後諸外國の投資に對する保護策としては製鐵の輸入を禁止す可しと論するものあり之れ固より一策たるを失はざる可しと雖も國家は製鐵業者のみを保護して却つて鐵工業の進歩發達を阻害するか如き政策を採るを許さず故に鐵材の輸入禁止は我製鐵業が少くとも我國鐵工業の維持に充分なる材料を供給し得るに到りたる後に非されは濫りに之を斷行す可きにあらす茲に於てか我國は成る可く速かに鐵材自給の策を確立して戦後外國の投資に會するに於ては直に其の輸入禁止を敢行し得るの準備を爲さる可からず政府は製鐵業獎勵法に依り民間大製鐵業に向つて課税を免除し消極的保護を加へつゝありて最近製鐵業勃興の兆ありと雖も前段論述の如く原鑛等の關係上徒らに資金を包藏して其着手に躊躇しつゝあるもの尠しとせず故に政府は此際速かに民間資金の潤澤計畫の確實なるものを選んで官業の一部を之れに移し遊資の利用を計ると共に民間製鐵事業の基礎を確立せしめざる可からず從來政府は海外の原料にのみ重きを置き内地原鑛は鐵分含有量稀薄の故を以て之れを等閑に附したるの傾あると共に専ら官業を以て獨占せん

とするの弊に陥りたり今日民間製鐵業發展の氣運に際し政府は速かに此の缺點を改め獨り官設製鐵所の收益を以て斯業の擴張を計るに止めずして潤澤なる民間の資を此方面に利用するの策を立て内地原鑛にして從來顧みられざりしものゝ如きも大いに開發利用せしむるの途を開き以て内外原鑛を遺憾なく使用して戰時中に於て既に十分なる自給の策を完成し戰後外國の投賣に對しては直に輸入禁止を斷行して敢て痛痒を感せざるの準備を爲さる可からずと。

(時事)

●鐵根本問題

今泉博士談

地質學者の調査に依れば世界の鐵鑛量は二百二十四億噸あり外に所謂疑問鑛量を合して一千二百三十億噸と稱せらる勿論此調査は主として歐米兩洲を基礎とせるものにて爾餘三大洲に至つては其の全面積の僅に百分の一乃至二程度の小部分を調査せるに止まり決して正確とは云ふへからざるも假に此計數を基として現下の需要趨勢と相對比すれば世界の鐵鑛は西曆千九百九十四年即ち今より七十七年後に於て消盡せらるべき勘定也然るに實際に於ては歐米に於ても新鑛床の發見せらるゝもの少からず例せば米國ミサビ、獨逸バハリアの褐色鐵山、瑞典キルナ鐵山、英國クリープラント鐵鑛床の如き地質學者は之を偶然の發見と稱して調査の缺を補ひつゝあるも彼等の調査區域以外に於ても我朝鮮の諸鑛山及滿洲本溪湖、鞍山站の如き鐵鑛の發見發掘枚

舉に遑あちさるなりされは前記地質學者の調査は縦や不完全にして實際の事實に遠き嫌あるにもせよ世界の鐵鑛か何れの日にか消盡するの時あるへきは何人も疑ふべきにあらず爰に於てか世界の學者は鐵に代るべき鑛物の研究をなしたものの少からざるも要するに何れも實現困難に歸するもの多くして結局は廢物利用に依り古鐵を以て循環的に活用して新鋼を製造使用し其消費を節約する外なかるへし。

翻つて我國今日の鐵饑饉は外鐵遮斷に原因する一時的現象にて深く憂ふるの要なく寧ろ此機會を利用して内地製鐵事業の發展を策するを急務とす唯爰に遺憾なるは我國には鐵鑛と製鐵に要する骸炭原料炭の甚だ豊富ならざることなり現在の調査に依れば我國の鐵鑛量は内地約六千萬噸、朝鮮五千萬噸、合計約一億一千萬噸にして之に對する需要は銑鐵、鋼を合して一ケ年約百三十萬噸なれば銑鐵百五十萬噸あらは兎も角も現在の需要は満足し得る次第なるが銑鐵百五十萬噸の產出には鐵鑛三百萬噸を要するを以て現存一億一千萬噸の鑛量は今後卅七年間を以て消費し盡す勘定となる加之既往十七ケ年の統計に依れば毎十ケ年に二倍乃至二倍半の増進率を示すを以て若し今後も此速度を以て進むものとせば大正十六年には六百萬噸乃至七百五十萬噸の鐵鑛を要するに至り我全鐵鑛は二十餘年の後には調査鑛量全部の生命盡くべきなり又一方石炭の調査鑛量は内地に於て十八億噸なるが現在一ケ年二千三百萬噸宛を採掘しつゝあり

て卅五年の後には採掘し盡す勘定なり而て百五十萬噸の銑鐵を製出するには骸炭用原料三百萬噸を要し之を鋼となす爲にも更に三百萬噸を要すべし是亦甚だ憂慮すべき次第にして彼の獨逸西部の製鐵地に於る石炭今後八百年を支ふと云ふに比して懸隔甚しと云ふべし。

故に我國製鐵事業の發展を圖るには先づ第一に鐵鑛の探索を急務となすと共に併せて石炭鑛脈調査發見するの急務なるを知るべし而して他方に石炭の消費を節約し可及的水力電氣を應用するは最も緊要なるべし蓋し我國現在水力電氣約四百萬馬力の半額を製鐵に應用するとせば爲に石炭の費消を三分の一に減ずることを得なければなり。

由來鐵鑛は重量重くして而も價格比較的低廉なるが爲めに人肩馬背二里の運搬を要する鑛山は經營困難なりとせらる抑も銑鐵一噸の生産に要する運搬力は石炭二噸、鑛石二噸、石灰其他二分の一噸、合計四噸半を要し更に製品を市場に出すに方りては副産物と共に一噸半を要するを以て鋼鐵一噸の生産に對しては結局八噸の運搬を要する譯なり以て斯業と交通機關の關係を推知すべしされば英國の如き製鐵工場の所在地を石炭供給の利便の好き海岸近接地に定め以て出來得る丈陸上運搬を避けつゝあり又獨逸の如きは製鐵所々在地悉く大陸の一隅に在り而も概ね國境に偏在するを以て一面運輸交通の利便に全力を用ひ自然に今日の鐵網を完成すると同時に他方製鐵原料に對して特別運賃法を制

定し以て斯業の保護發達に意を用ふること頗る至れるを見るされば我國の如きも第一に原料及製品の運輸を便にし鐵道船舶の運賃を低下し進んで血管なる鐵道は固より其毛細管とも譬ふべき小軌道を普及充實し尙山間深谷には架空索道を配置する等の施設を完からしめざるへからず。

次に内地保有鑛量の豊富ならざる我國に在ては及ふ丈け外國產鐵鑛及石炭を輸入するは最も策の得たるもの即ち英國の如き先進國に於て使用する製鐵原料鑛石か西班牙、瑞典產か本源たるか如く我國も支那、南洋、西比利亞より輸入すべく又近時露領沿海州の外人工業禁止も解除せられ居れば一步を進めて此地に工場を置くも亦可なり而して是等の實行に伴つて緊要缺くへからざるは余輩か毎度主張する關稅保護の實行なりとす。(報知)

●平山式製鐵計畫

藥學博士平山松治氏が今回本邦に於て殆ど無盡藏とか云はるゝ酸化鐵質黃赤土より鐵を採取する新製鐵法を發明したりとて關係者大鐘彦市、内田良平、千葉八起、岩川與助の諸氏と共に此製鐵法に依る製鐵會社を創立する事となり新聞記者其地を請待し大要左記の如く其發明の動機經過及び計畫の内容を發表したり。

今回發明せる製鐵法と云ふは酸化鐵質黃赤土に化學的藥品を混和し電氣爐にて熔解採取するにあり發明の動機は平山、大鐘兩氏が郷里福島縣信夫郡地方に存在する黃赤土を以て染料製造研究中其土質の酸化鐵なる事、古人が

黄赤土より鐵を採取し得らるべしと豫言したること並に帝國鐵工業の發展及對支政策解決上製鐵事業の獨立を企畫せざるべからずとの國論等に促されたるにあり而して此の製法に由る鐵材の品質は堅緻強靱にして普通鐵より稍々輕く其製造費の如き銑鐵一噸に付二十圓内外に過ぎず製造設備の如きは總て器械簡單にして殆ど外國品を要せず且つ夫れ原料たる黄赤土並に配合劑の内地包藏量に至りては殆ど無盡藏にして全く外國より其供給を仰ぐ必要なく殊に各地產黄赤土は殆ど百分中六五乃至九五パーセントの酸化鐵を含有し其酸化鐵の純鐵含有分は九五％ものにて六六％方あるの割合にて新製鐵法に由る原料として申分なき良質たり是れ全く本邦が火山國たるに基因すべく其の國內存在量は何十億噸に上るへし（計畫者の出願礦區内丈にて十億噸と計上さる）従つて今計畫者等の出願礦區内產額十億噸を以て鐵を製造せんに鐵含有割合を平均五〇％として採算するも五億噸の鐵を得ること明かにして従つて一箇年二百五十萬噸を製造するとするも二百年間は原料不足を感じることなかるべく加ふるに生産費低廉なるの事實は鋼鐵一噸當り價格を五十圓以内に一定すること必しも難事にあらす由つて計畫者は大なる自信と決心とを以て神戸市岩川與助氏の助力の下に先づ資本金五十萬圓の和鐵（新製鐵法に製鐵名）合資會社を組織し試験的工場敷地として大阪府神崎驛附近の土地

を買收し既に建築に着手し居り本年二月下旬迄に竣工豫定にて其曉は直に毎日五、六噸の製造を開始する等尙此の多量生産試験に於て成功したる上は電力低廉にして原料豊富なる地に工場を設置し以て所期の目的を貫徹すべき豫定なり云々。

●平山博士の新發見に就て 黒鐵生投

平山博士は黄土に化學的藥品を加へて最も經濟的に銑鐵を製出するの新發見をなせりといふ吾人は最初此報道を手にせる時博士の新發見は必ず吾人か夙に實驗せし酸化鐵に石炭及び木炭を加へて電氣爐にて熔解する方法に比し遙に進歩し又經濟的のものならんと想像せしに計らさりき吾人の實驗と何等異なる所なからんとは今新聞紙に依りて報道せられたる博士の談話を基礎として少しく吾人の疑問を述べんとす。

博士は三千基ワットの電力にて一日三噸即ち一晝夜六噸の鐵を製出し得といへり、若し然りとせばコハ製鐵事業として果して經濟的のものなるや、我國の電力料金は最低一キロワット一箇年四十圓即ち一基ワット時五厘と見さるへからす然らば三千キロワットの電力料金は一時間十八圓一晝夜四百三十二圓に當る、故に博士の言の如く一晝夜六噸の銑鐵を製出すとせば一噸の銑鐵に電力料金のみにて七十二圓を要し之に電極のカーボン（五百キロワット一爐と見て）少くとも十二本を要するとせばアセリンのグラフワイ

トを平時の價格十本十五圓（我國にて製造するものは現今八十圓）にて輸入するとしても一晝夜のカーボン消費料百八十圓に上るへし。

此他工賃其他の消耗費一晝夜假に三十圓を要すとせば直接生産費のみにて銑鐵六噸に就き六百四十圓を要し一噸當り約百六圓となるへし、然るに平時に於ける銑鐵一噸の原價は約二十四五圓なれば平山博士の新發見か平時の事業として成立するの望みなきのみならず電力料金カーボンの暴騰せる今日戰事中の作業としても果して成立すべきものなるや否や吾人の疑に堪へざる所なり。

●黃赤土の分析

平山藥學博士に依つて發明された

新製鐵法に關しては専門の學者間には大分議論があり特に農商務省地質調査所に於ては先づ其原料となるへき土に就て大なる疑ひを抱いてゐる即ち『發見者の言の如く果して斯く多量に酸化鐵を含有する土か我國内に到る處に無盡藏にありや』『又』發見者か偶々件の土を見出したりとするも如何なる方法を以て分析し且つ如何なる方法を以て各地を調査せるや』之等の顛末を詳細に聽かない以上は未だ遽に博士の言を信することは能きぬ寧ろ調査所に於て從來各地に互り調査せる所によれば未だ不幸にして斯の如く過分の酸化鐵を含有してゐる土を發見した事が無いと迄斷言してゐる博士の發表か果して一同を首肯せしむるに足るや否や之等の疑問は本日直に解決さるへき問題である所て地質調査所

に於て第一の疑問としてゐる酸化鐵の含有量に就き國民記者か内田良平氏より酸化鐵九十パーセント含有せりと稱する土二種並に八十パーセントを含むと云ふ土一種を貰ひ受け之を地質調査所及び遞信省電氣試驗所へ參考の爲あ提出し目下兩所に於て分析中であるが電氣試驗所では曾つて地質調査所の技師であつた遞信技師小川若三郎氏親しく分析の任に當り精細に分析した結果左の通り頗る好成绩を示したりと云ふ。

▲九十%含有せりと稱する土の分析、水分三十%、鐵分三十九%（酸化鐵五十五、六%）

更に灼熱せる無水物の成績、鐵分五十五、七%酸化鐵約八十%

▲八十%含有せりと稱する土の分析、水分二十二%鐵分四十四、八%（酸化鐵六十四%）

更に灼熱せる無水物の成績、鐵分五十七、四%酸化鐵八十二%）

●米鐵禁出の原因

時事の通信員は米國鋼鐵輸出禁止の原因に就て左の如く報道せられたり、

一、米國船舶院造船計畫所要鋼鐵量と米國造船用鋼板生産額との統計上の誤差

二、日本造船業の常軌を逸せる好況延いて日本造船業者の米國市場買煽りの及ぼせる惡影響

勿論此間大小輕重の差あり、一は主なり二は客なり従なり

72 アイアン、トレード、レヴェュー一九一七年十月十八日號に

よれば、主要なる政府需用鋼鐵量左の如し(單位千噸)

砲彈用鋼棒

二、五〇〇—三、〇〇〇

緊急造船組合作用

二、〇〇〇—三、〇〇〇

内 鋼板

一、五〇〇—二、〇〇〇

其 他

五〇〇—一、〇〇〇

エマーゼンシイ、フリート、コーポレーションの鋼板需用額
は其全鋼鐵需用の約七割即ち百五十萬噸乃至二百萬噸なり
と稱せらる、又アイアン、エーダー一九一七年六月七日號社説
によれば合衆國に於ける造船用鋼板生産額如左

一九一六年全鋼板工場産額

三六七七、三八四噸

此場合に於ては厚さよりは寧ろ製造方法の何たるやか必
要條項なるか、若し厚さのみを標準とすれば

同年ジョッピング、ミル産額

二七、一八〇噸

(但し十二番ゲージ以上(十二番ゲージは六十四分の七
吋)のみを加ふるを要す即ち此兩者合計

一九一六年全鋼板産額

三、九四九、一九三噸

と見るべきなり

之を一九一三年即ち戦前に比すれば其三、二五五、一〇七噸
に對し二二三パーセントの増加となる、然しなから今船舶
建造用鋼板として刻下の問題となれるは此約四百萬噸の全
額に非ず、即ち之より

一、ジョッピング、ミル製品

二七、一八〇噸

二、シエアード鋼板(四分の一時以下) 五八七、五〇八
三、ユニバーサル、ミル鋼板全部 一、二二四、二三四

小 計

二、〇八三、五五一

を減せざるへからず(此ユニヴァサル製品中には四十八吋
幅乃至夫以上約二パーセント三十吋乃至夫以上約二十二パ
ーセントを含む)、即ち差引

四、四分の一時乃至以上のシエアード鋼板年産

一、八六五、六四二

然るに此内尙四分の一時は厚さ充分なりとせず、又或一部は
幅充分ならざるか故に此二を差引く時は

五、一九一六年船舶用鋼板月産額

一二五、〇〇〇

六、一九一七年同月産額

一五〇、〇〇〇

か眞に造船用鋼板と稱し得べきものなり、月一二五、〇〇
〇噸として年百五十萬噸、又月一五〇、〇〇〇噸として年
百八十萬噸に當る、之を全ロール鐵鋼一九一六年産額三二、
三八〇、三八九噸に比すれば一、五〇〇〇、〇〇〇噸とし
て約四分六厘内外なり此數量を前述政府需要額に比すれば
一九一七年産額を以て辛うして年六百萬噸造船に對する要
求に應し得べきを見るへし。(時事)

●日東製鋼會社總會 十二月二十二日丸の内鐵道協
會に於て開會せし日東製鋼株式會社株主總會席上取締役會
長井上角五郎氏の演説は左の如し。

諸君余が入社してより株主總會を開くこと茲に二回に及び資本拂込の漸く増

加せしに拘はらず多少乍ら配當の増加せしは余の仕合とする所であります當社の純益は以來追々に増加し今回は十月一日の風水害ありしに拘らず十四萬六千六百六十五圓の純益を上げ得たるは第一に製造數量の増加したること第二に販賣値段の増加したことは其の主なる原因なれども就中追々に技術の進歩し機械も亦整頓して殊に三噸六噸のハンマーが共に働くに至つたのは純益の増加に與つて力があるものであります余は今日の純益より災害復舊費を支拂ひ各種積立を相當にして而して年利二割の配當をなしました余の計算にてはブリキ事業に着手し其の利益を見込まざるも當分は此二割の配當を繼續し得るものと信じて居ります試みに前半期々末十一月一箇月の計算を見るに此月は二十五日を以て計算を締切りました三噸一噸其他二臺のハンマーは全部働きましてけれども六噸は十二日より僅に十日間働いたものであります然るに製造費販賣代差引利益が鑄鋼で五百十七圓鍛鋼で四萬八千八百八十六圓鑄鋼で一萬五千三百七十八圓合計すると六萬四千七百八十一圓になります全部の設備が働いたのは此月計りであつて今後は是丈の働きが出来る筈である此月は期末で重役報酬期末手當を支出し入費も増して居るけれども差引純益が五萬二千八百十五圓であります二十五日迄六噸ハンマー十日間の働きて此の純益を得た其上に今後の注文はハンマーも鑄物も數ヶ月分を引受けて居ります故に新株を拂込み尚ほブリキ製造迄に今一回拂込むとした所で二割の配當は現在の設備の純益より得らるゝ筈でありますブリキ事業の經過に關し更に一言します本年九月九日中島事務山下技師は出立して米國に渡航しました其報告に依ると買収したる工場の受渡は來年一月中旬であつて直ちに船積する準備を整へて居ります又中島事務はブリキ製造は容易の業にあらず故に技師職工を備ひ來る考を以て出張しましたが視察の結果は責任を以て製造を引受ける故に外人は備入れぬと云つて來ました事務は本月二十七日に横濱に到着する豫定であつて山下技師は器械其他を纏めて共に歸朝する筈で恐らくは二月初旬となることとありませう工場敷地は川崎にて現在所有のものと共に三萬二千八百九十坪を要するものであります内閣から土地收用申請の認可せられたのは本年十月十三日でありました土地は追々交渉が纏つて單に三千七百坪だけ審査手續を執ることとし現に運び中であります農商務省陸軍省等より種々の便宜を與へられ殊にブリキ原料は當分若松製鐵所より供給を受けることゝ相談が整ひましたブリキ事業の經過は此様の次第であつて余は大正七年上半年中に必らず其の製品を市場に出したいものと思つて居ります但し其利益は

姑らく置きて現在の鑄鋼鍛鋼のみにて年利二割の配當を繼續するのが余の希望する所です且つ盡力する所であります本日の總會を終り新株拂込みの登記を済ませたる以上は當社の株式を定期取引に掛け公定相場を定めて諸君が株式を金融の用に供する便宜を開らく積りてあります。

●特 許

左の如し

第三一八五七號

大正三年十二月二日出願
大正六年十二月十日特許
特許伊國ソシエタ、アノニマ、イタリアナ、ジ
權者オア、ンサルド、アンド、コムパニ

鋼鐵熱處理法ノ改良

發明の性質及び目的の要領 本發明は鋼鐵熱處理法の改良に關す即ち鋼鐵熱處理法に關し精確に其熱度を測定したる二様の加熱を順次に施すものにして第一に鋼鐵中の各異りたる組成分子か最大の速度を以て擴布現象を生ずる程度の熱度に達する迄徐々に加熱し右熱度を一定時間内に維持し次に熱度を徐々に低下して普通加熱中の鋼鐵か熱化せらるゝ最終時の熱度(AR)に達せしめ右低下熱度を一定時間内に維持し而して後鋼鐵を冷却する方法より成るものにして其目的とする所は硬鋼及鍛鋼の製品殊に銃砲身及甲板等の製品に應じて製品の脆質を減少し同時に其強力伸張力及び柔軟性を増さしむるに在り。

特許請求の範圍

本文所載の目的に於て本文に詳記する如く鋼鐵熱處理法に於て鋼鐵中の各異りたる組成分子か最大の速度を以て擴布現象を生ずる程度の熱度に達する迄徐々に加熱し右熱度を一定の時間内に維持し次に右熱度を略加熱中の鋼鐵製品か熱化する最終時の熱度(AR)迄徐々に降下し右熱度を一定の時間内に維持し而して後鋼鐵を冷却する方法より成る鋼鐵熱處理法

第三一八七三號

大正六年六月一日出願
大正六年十二月十二日特許
特許權者 大阪府 關家英孝

鐵材に炭素を與え灼熱鋼化せしむるに當り燃料中より發する亞硫酸瓦斯の侵害を防止する方法

發明の性質及び目的の要領 本發明は鐵材を耐火性容器内に於て適宜に調和せる炭素を以て包藏填充して覆蓋を施し其容器の間隙又は周圍より硝酸鉛の溶液を練合したる粘土を塗布圍繞し乾燥の後焙爐内に於て灼熱に附するものとす然るときは包圍せる粘土中の硝酸鉛は熾熱に會ふて酸化鉛に分解し酸化鉛は燃料中より生ずる無水亞硫酸瓦斯に觸れて硫酸鉛となりて以て容器の間隙又は氣孔等より亞硫酸瓦斯の滲入するを防止せしむるの方法に係り其目的とする所は假之少量と雖も硫黃の侵入は鐵材表皮の強さを遞減するの虞あるを以て其侵害を除き以て鐵材を鋼化せしめんとするに在り。

特許請求の範圍 本文所載の目的に於て本文に詳記せし如く粘土製の容器内に於て所要の鐵材に炭素質をして包藏密閉し硝酸鉛の溶液を以て練合したる粘土を容器の間隙又は周圍より塗布圍繞して灼熱に附し以て燃料の燃焼より生ずる亞硫酸瓦斯を粘土中の硝酸鉛と化合せしめ以て内藏する鐵材に及ぼす亞硫酸瓦斯の侵害を防止する方法。

●丁巳會の組織 本邦有力なる鐵材輸入商は内外兩方面の鐵材商取引の改善を計るの必要に迫られ頃日來寄々協議中なりしか十二月十三日左記諸商店會社代表者會合協議の結果丁巳會なるものを組織し問題の起る度毎に協議會を開きて解決をなす事に決定したり而して同會は飽迄一致の行動を取り内地取引關係に於て今日の穩當なる處置も最効果を奏せざるに於ては制裁方法として黒表制定をなすへき事を申合せたり。

△會 規

一、會の名稱 丁巳會

一、目的 鐵材商取引の改善を計るを以て目的とす。

一、會員(當分左記十名とす) 岩井商店、大倉組大阪支店、高田商會大阪支店、増田合名會社神戸支店、湯淺、三井物産大阪神戸兩支店、芝川商店、鈴木本店及大阪支店

一、例會開催 隔月(偶數月)中旬但新年及春秋に臨時會を開く事並に協議すべき問題突發の際は當番幹事に於て何時にても臨時會を召集すること一幹事二名(大阪神戸にて一名宛)幹事は左記順番にて交替す。

大正七年二月 岩井、鈴木同年四月三井(大阪)湯淺同年六月、芝川、鈴木(大阪、同年八月、高田、三井(神戸)同年十月大倉、増田

●臺灣の新竹鐵礦 近來鐵價昂騰のため臺灣に於ける鐵礦熱は旺盛を極め中部の各地を採檢出願するもの尠からざるか就中此の程新竹廳下竹北一堡客雅庄、青草湖庄方面の出願鐵礦は其の層八九尺のもの連互し而も鐵分の含有量は最高八〇パーセントを計示し平均六〇パーセント以上にして從來精鍊上の採算に不利と稱せられたる燐酸に硫黃の含量も亦極めて歩合少く鑛量の多大なる點に於て非常に有望にて位置は官線鐵道を距る遠からざる爲め運搬上極めて至便なるか既に其の筋も有望と認め假調査をも結了せるを以て愈よ近く許可の曉には新竹街附近に精鍊所を設け製鐵業を開始する計畫なりと因に同鐵礦附近は古來本島人は之を鐵塊庄と稱し來りたる程の所にて該鑛區は頗る有望のものなりと云ふ。

●東海鋼業操業 建設中なりし東海鋼業の若松工場は七百五十馬力ローレル一基及び一千馬力ローレル一基の設備を愈々完成したれば去る十二月廿二日を以て試運轉を爲し

たるに成績良好なりしを以て近く製品を市場に出すに至るへく同工場最初一ヶ月製産能力は鐵板二千五百噸なりと。

●東京製鋼擴張工場

東京製鋼會社にては材料自給の爲め目下福岡縣小倉製鋼所に線材工場建設中なるか既に二十五噸平爐二基を完成し昨今建設中なる第三基二十五噸平爐は四五月頃には竣工すべく續いて同線材工場も四五月頃には全部完成すべく豫定なるか最初の製産能力は一ヶ月三萬六千噸の能力なりと而して右線材工場竣工の曉は更に製線工場の建設に着手すべしと。

●日本鋼鐵工場建設

日本鋼鐵會社にては島根縣邑智郡川本にて工場建設準備中なるか同工場用機械は既に完成し熔鑛爐建設は本年一月中を以て竣工し十噸熔鑛爐三基を据付け鐵鑛一ヶ月百五十噸を精煉すべく豫定なるか同社は右川本工場の外三ヶ所に工場を設け合計十一基の熔鑛爐を以て鐵鑛一ヶ月千五百噸を精煉し之より銑鐵三百噸を精煉すべく計畫なりと。

●帝國製鐵創立期

帝國製鐵株式會社は黑板傳作氏を委員長とし目下創立中にして技術家の招聘も既に内諾を得たれと此上とも萬全を期する爲め原鑛探掘地及運搬工場豫定地と水力電氣供給關係等に亘りて黑板氏自ら現場を實査する事となり隨つて自然會社の創立に多少の遲延を來すべしと云ふ。

●東京銑鐵の重役

大倉喜三郎氏を創業とする東京

銑鐵會社は去る卅日創立總會を開き左の如く重役を選定せり。

△取締役大倉喜三郎、太田清藏、高尾傳七、増田德三郎
藤田經孝、石川鐐之介 △監査役今泉嘉一郎、久米田新太郎

●鐵に關係する會社の登記

●株式會社設立

- 一商號 中央製鐵株式會社
- 一本店 東京市京橋區西紺屋町十番地
- 一目的 鐵鑛の採掘銑鐵製造及販賣並に之に附帶する事業
- 一設立の年月日 大正六年十一月三十日
- 一資本の總額 金一百萬圓
- 一一株の金額 金五十圓
- 一各株に付拂込みたる株金額 金十二圓五十錢
- 一公告を爲す方法 中外商業新報に登載す
- 一取締役の氏名住所
 - 東京市芝區三田功運町一番地 白石元治郎
 - 同市同區高輪南町四十七番地 今泉嘉一郎
 - 同市神田區淡路町二丁目三番地 平野増吉
 - 同市芝區田町五丁目十六番地 淺野泰治郎
 - 東京府北豐島郡高田村大字雜司ヶ谷千八百十八番地 伊藤幸次郎
- 會社を代表すべく取締役
 - 一監査役の氏名住所
 - 岐阜縣郡上郡八幡町八百六十一番地 平野六之助
 - 東京市芝區田町六丁目九番地 鈴木紋次郎
 - 白石元治郎